

新図書館整備事業基本構想策定に向けて

## 第3回 図書館ミーティング開催!

### テーマ 『まちの誇り (シビックプライド) につながる郷土資料の使い方は?』

令和6年10月6日(日)、第3回図書館ミーティングが開催されました!!!  
今年度最後の今回は、『まちの誇り (シビックプライド) につながる郷土資料の使い方は?』がテーマです。  
庄内大祭本祭当日にも関わらず、18名のミーティング参加者と多くの傍聴者にお集まりいただきました。  
はじめに、普段は見ることのできない郷土資料館収蔵庫と企画展を解説付きで見学～アドバイザーの山崎先生から郷土資料に関する講話をしていただいた後、グループワーク形式で議論を進めました。  
直前に収蔵庫から溢れんばかりの郷土資料を目の当たりにしたこともあって、この豊富な郷土資料をどう活かしていくべきか…アッ!という間に3グループとも模造紙がふせんでいっぱいになりました!!



### 図書館ミーティングの流れ

- 1 ガイダンス (市より)
- 2 閉架書庫 (郷土資料庫) の見学  
自己紹介シート記入・自己紹介
- 3 講話 (アドバイザーより)
- 4 アイスブレイク (自己紹介)  
グループ内で自己紹介
- 5 ワークショップ  
◇個人ワーク …考えをふせんに自由記入  
◇グループワーク …意見交換、整理  
◇まとめ …キーワード抽出、発表準備
- 6 発表
- 7 アドバイザーコメント

## 『展示・情報発信・活用』にかかわる意見

### 鶴岡PR!

他地域から参加された方から、鶴岡は文化レベルが高くて羨ましい!とのお言葉もいただきました。

- ・地元こんなものがあるよ…これから知ろう!誇ろう!と資料の質・量をアピールすべき!
- ・街歩き観光につながる企画展示
- ・観光客へのアプローチとして、駅やホテルに古地図等の資料を置く
- ・例えば旧町名コンプリートサブプレなど郷土資料のお土産商品化
- ・古地図と現代図の重ね合わせは観光とつながるし面白い
- ・市街地に絵図写真、人物画等、シンボルとなる案内板を作成
- ・懐かしい広告資料の展示をまちなかで開催!
- ・郷土資料のPRの仕方をわかりやすく
- ・地域史のエピソードをLINE配信

### 子ども

未来を担う子どもたちにどう伝えるか…たくさんの意見が挙がりました。

- ・子ども向けの郷土史の展示
- ・自由研究とか調べると面白いけど、なかなか子どもには難しい…
- ・子ども(歴史素人)のための企画展
- ・小中学校で学区に関わらず、探求テーマを設定し、そこに郷土資料をわかりやすく提示
- ・子どもや初心者のために間口を広げる
- ・太平洋戦争と鶴岡・庄内地方の歴史(子どもや孫への伝え方)
- ・子どもたちにもわかりやすく解説した郷土資料があったらいいな…
- ・自由研究などに使う子供向けの資料が少ない。出版されていないなら作成することも必要!
- ・大人からの引き出し
- ・ファミリー・ヒストリー(写真等)

### きっかけづくり

シビックプライドスタート…読書や読み聞かせと同様に、最初のきっかけづくりが大切です。

- ・芸能・食文化などジャンル分けした資料の展示
- ・興味あるところを入りに親しみやすい展示
- ・触れてもらうきっかけに、週一回郷土史おもしろコーナーを配信
- ・展示内容を皆さんにどう知ってもらうか?
- ・レファレンス事例紹介(こんなことも調べられるんだ～)
- ・個人収集物の展示ができるよう、展示施設を市民に開放してはどうか?
- ・ホームページにゆる～いコーナーを作る(文化・歴史的なミニコーナー)
- ・初めての人も気軽に来られる郷土文化・郷土史・古文書講座(勉強会)

### 興味・関心

事前見学で資料レベルの高さを目の当たりにすることができました。これを活かさないのはもったいない!

- ・市民の興味ある資料の種類を把握して情報発信!
- ・市民とのコミュニケーション(実はこんなことやっている!)
- ・市民の大半は郷土資料館が何をしているか知らない…ので興味を引く展示
- ・保存がどれほど大変かは分かるが、資料の開架をしてほしい(今日の見学はとても楽しかった!!)
- ・クレードル(地域文化情報誌)の活用
- ・歴史の専門性を要しない企画(昔の道具とかビジュアルで分かりやすいもの)
- ・今回発見された郷土資料!みたいなおもしろなチラシ(へえ～となるような本を読みに来た人に+αの発信を!)

### アイデア

歴史や郷土に詳しい方々からは、より具体的で専門的な展示アイデアも挙がりました。

- ・三つの日本遺産(出羽三山、松ヶ岡、加茂)のアーカイブ発信
- ・太平洋戦争に至るまでの歴史・役割とその後(軍人・新聞・国民)
- ・幕末における幕府と庄内藩・長岡藩との違い
- ・三方領知替による幕府の弱体化、庄内藩の歴史上の役割
- ・郷土資料館の展示も前へ
- ・人の集まる場所・お祭り等への啓発展示(古い家にある時代祭の衣装など)
- ・シビックプライドとは…共有する、歴史文化を知ること

### デジタル

郷土資料を最大限に活用するために、図書資料同様にデジタルアーカイブ化は大きなテーマのようです。

- ・いつでもだれでもどこでも資料にアクセスできるようにデジタル化
- ・秋田県立図書館のアーカイブ・デジタルに学ぶ
- ・図書はHPで検索できるが郷土資料は検索できない
- ・研究者は情報収集できるが一般の方にはできない。何を収集しているか情報を発信することが重要!
- ・講演会資料を動画で配信→YouTube文化に対応
- ・狭いため保存の仕方に工夫(デジタル化するもの、しないものの仕分けなど)
- ・インターネット利用で情報共有

## 『収集・保存』にかかわる意見

### 鶴岡だからこそ

鶴岡ならではの収集保存アイデアもたくさん挙がりました。

- ・旧図書館(大宝館)との協力
- ・地元の語り部の録音資料を残したい
- ・給食(鶴岡発祥)の献立もアーカイブしてレシピも再現できるように
- ・方言は字だけでなく音でも
- ・年代が違えば見方が大きく違う
- ・市の広さを利用!
- ・出羽三山の精神文化をアーカイブ化
- ・本や映画の歴史考証、デジタル化等、どんな資料があるのかわかるように
- ・他を知る、そのことが理解を深める
- ・旧家などで廃棄されている史料が多いと思われるが、保存することができれば、それが誇りにつながる
- ・家庭や職場にある資料の選別、保全

### 保存の仕方

郷土資料を永く残していくためには、ハードだけでなく、ソフトの整備も重要です。

- ・何かとれどもつのか媒体実験
- ・今の人にアーカイブいらないよね?とされないように伝えていく
- ・お金になる資料から整備していく
- ・古文書の解説講座→資料解説をどんどん進める
- ・安全な保存スペースにお金をかける
- ・語らずに気づかせる(アーカイブ)
- ・誇りに気づくのは後から
- ・続けること、計画と新鮮さ
- ・由利本庄市のように郷土史家グループとプロジェクトを組み、資料の口語訳やテーマごと研究資料集作成
- ・資料の正しい使い方をデジタル・アナログどちらも作成してほしい

## 『交流・イベント』にかかわる意見

### みんなで楽しむ

まずは楽しむことが大切…方言クイズや郷土史散歩ツアーなど、イベントアイデアが挙がりました。

- ・成人式で生まれた時の新聞コピー配布
- ・古文書クイズ(なんて書いてあるでしょうか?)
- ・方言アーカイブ音声(なんて言っているでしょうか?)
- ・ざんざ商店街のチラシを飾るなら、昔働いていた方に来てもらって当時の話を聞ける…とか
- ・プラタモリ的ワークショップ
- ・探訪クラブや古文書を読む会を作る
- ・観光ツアーに郷土資料館を組み込む(北前船ツアーや修験道ツアーなど)
- ・子ども向けの郷土資料館ツアー
- ・郷土史散歩

### みんなで学ぶ

机に向かう勉強だけでなく、郷土資料に親しむことが、まちの誇りを育むことにつながります。

- ・石原莞爾の長持がすごくよかった…見たら参加したくなるかも
- ・収蔵庫の見学
- ・古文書解説の講座(初歩)
- ・期間限定展示を行い、今回の見学のよう解説をしてほしい
- ・コンテスト、キャラ化等のイベントを通じて、郷土の偉人を知る機会を設ける
- ・コミセンごとに地域の歴史・文化に関わる資料を考える講座
- ・寺院や神社も定期的に寺社伝説にかかわる講座
- ・高校生・大学生で地域の歴史・文化に関心があるメンバーを募集し定期的に調査・レポートを書いてまとめ公表

## 『人・運用』にかかわる意見

### スペシャリスト

市の職員に頼るだけじゃない、ボランティアの重要性について議論が交わされました。

- ・街歩きの案内スタッフが欲しい
- ・月一ぐらいで初歩講座に習いながら郷土資料を見られるようなメンバーに
- ・今野さんのような専門スタッフを増やす
- ・市民からボランティアを募る
- ・ボランティアの間口を広げる
- ・郷土資料のボランティアグループを作る
- ・展示企画に市内外の有識者にも参加してもらってはどうか
- ・リタイア世代のエネルギーをうまく使って孫が見聞きできるように
- ・展示、情報発信に高校生や大学生にも参画してもらう
- ・学生はかりに頼っていてはダメ。自分たちがやるくらいの気持ちを持たないと。

## まとめ

郷土資料に詳しい方から初めてふれる方まで、多くの方から様々な意見をいただきました。

専門性が高く、図書開架室に比べて近寄りやすい印象の郷土資料館ですが、鶴岡市の郷土資料の所蔵点数は日本でもトップレベルだそうです。それだけ歴史と文化が根付いたまちということ。郷土資料館が図書館と同じくらい重要だと改めて実感できました。

全3回の図書館ミーティングを通じて、頂いた多くの貴重なご意見は、しっかりと分析して基本構想に活かしてまいります。今年度は最終回となりますが、来年度以降も引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願ひします。

